

(様式3) 休眠預金等活用事業 支援対象活動計画書 (詳細)

2023年度 活動支援事業
ジャパン・プラットフォーム 災害に対応できる民間支援団体の増加と基盤強化事業

※記入に当たっての注意事項: 入力スペースは適宜ご調整いただいてかまいません。

団体情報

団体名	(法人格)団体名(略称) 特定非営利活動法人新潟県フードバンク推進協議会						
団体概要	設立趣旨書の目的・事業内容なども含めて記載してください 当会は、2020年のコロナ禍において望まない社会的孤独・孤立や経済的困難を抱え、縁故による援助も望めず、日常生活が失われたひとり親家庭等生活困窮世帯の子供へ、新潟県全県のフードバンクやこども食堂が連携し食料品や衛生用品等生活必需品を緊急援助する『子どもの未来応援プロジェクト』を実施する為に任意団体として組織された。 現在は国や県、市区町村や社協、企業や学校、地域コミュニティやNPO等の多様な組織と協働し、子どもの貧困対策に寄与する事業に取り組むことで多機能化を図っている。 2025年2月18日にNPO法人化。						
これまでの主な事業 ※適宜、行を増やしてください	主な事業名	碑益者属性		碑益者数			
	子どもの未来応援プロジェクト	ひとり親家庭等生活困窮世帯の子供と家族		30,000			
	あしながサンタX'masプロジェクト	ひとり親家庭等生活困窮世帯の子供		3,000			
	チャリティーサンタ	ひとり親家庭等生活困窮世帯の子供		5,000			
	「学ぶ」を応援。新潟日報朝刊無償提供	ひとり親家庭等生活困窮世帯の子供		300			
	食支援団体中間支援事業	フードバンクやこども食堂		100			
法人設立日	2025/2/18	会員数	26	役員数	4	職員数	5
団体所在地	新潟県三条市北新保1丁目20番18号						
当該プログラムのご担当者 ※複数数の場合、行を増やしてください	ご氏名	メールアドレス(PC)		電話番号			
	小林 淳	info@niigata-fblc.org		0256-34-8960			
	(団体での役割、非営利分野での活動年数、災害支援のご経験(あれば)など) 事務局長。新潟県内で7団体存在するNPOの中間支援組織の一つであるNPO法人NPOさんじょうの事務局長として16年勤務し現在に至る。NPOさんじょうでは現在NPO等100団体以上の事務局を担い、年間約3億円の事業を経営する。 災害支援の経験としては、平成16年7月13日の新潟・福島梅雨前線による7.13水害に際し、行政や社協と連携しボランティアセンターに参画。以降、「新潟県災害ボランティア調整会議」の構成団体として、全県の災害支援会議に参画。現在は三条市の公共施設「三条市かわまち交流拠点施設」指定管理者として三条市水防学習館にて、防災・減災教育やイベントを主催している。						

貴団体の活動分類はどれにあてはまりますか？(該当するものに○)

☐	A. 非災害支援団体(災害支援経験なし)	
☐	B. 非災害支援団体(災害支援経験あり)	
☐	C. 災害支援団体	
災害支援経験ありの場合 (上記B.C.に該当) ※複数あれば行を増やしてください	対応災害名	令和4年8月県北集中豪雨
	実施内容	(1)被災世帯へ新品の家具約2,000点の提供 (2)被災世帯へ食糧品や日用品、生活家電等の提供
	実施期間(日数・月数等)	令和4年8月～9月の約2ヶ月間
特記事項など(何かあれば)	令和4年8月豪雨災害の貢献団体として村上市より感謝状を授与。	

支援を受けたい内容(該当に○)

	課題意識や要望について
☐	1.規程類の整備 新潟県フードバンク連絡協議会及び北陸フードバンク推進協議会が災害支援の活動基盤として、休眠預金を活用し、緊急災害支援に取り組める様に整備したい。
☐	2.災害に関する事業計画立案 令和6年1月能登半島地震及び令和6年9月中能登豪雨水害により、北陸四県には未だ被災の爪痕が残り、北陸フードバンク推進協議会の連携により相互支援に取り組んでいる。この支援連携の強化を図る事業計画の立案を望んでいる。
☐	3.災害支援に関わる社会的インパクト評価 今まで当該外部評価を受けたことが無い為。休眠預金事業の事業評価について理解したい。

※支援内容・期間等については、詳細面談後に決定させていただきます。

団体財政状況について

前期決算額	30,000,000円	
事業費	15,000,000円	(50%)
管理費	15,000,000円	(50%)
委託費	0円	%
受入寄付額	5,000,000円	
負債	5,000,000円	

当該プログラムへの申請理由

災害対応準備理由	申込み経緯(考えている災害リスクや自団体が災害に取り組む必要性、所在地域での役割や、他地域での活動の有用性など)	
	(1)北陸四県においては近年、地震及び豪雨水害が頻発しており、今年も甚大な被害が発生している。 (2)富山県、石川県、福井県の隣県である新潟県に所在する当会は、北陸フードバンク推進協議会の連携を基盤に、北陸三県で発生する災害支援に最も尽力できる役割を果たすことができると考え、令和6年能登半島地震の今後の復興を支える活動に有用性を発揮したい。 (3)全国の災害支援団体と交流し活動ノウハウを学び、北陸四県での災害支援活動に活かしたい。	
想定する災害時の活動	対象地	事業内容
	北陸四県(富山県、石川県、福井県、新潟県)	(1)フードバンク団体の活動基盤を活かして、食料品や日用品など生活必需品の緊急支援。 (2)災害脆弱層であるひとり親家庭等生活困窮世帯の子供や家族に対するメンタルケアや伴走支援。

災害対応準備完了後の活動の見通しについて

活動意向	活動予定内容	資金調達について
団体所在地内における災害	新潟県内における震災や水害時の緊急支援及びその後の伴走支援。	助成金や補助金
隣接県での災害	北陸四県である富山県、石川県、福井県での震災や水害時の緊急支援及びその後の伴走支援。	助成金や補助金
遠隔地での災害	全国フードバンク推進協議会やセカンドハーベストなど、全国区で災害支援に携わる連携団体の要請に基づき活動する。	助成金や補助金

支援終了後に期待する効果、将来像、ビジョンなど

長期化したコロナ禍で負った心の傷、震災や水害の被災者の心の傷、また今後5年10年と続く各種リスクの連鎖や関連死等を鑑み、隣人である北陸四県(福井・石川・富山・新潟)の中核フードバンク間の連携を強化・継続するとともに、災害脆弱層一人ひとりに寄り添った支援の在り方や組織体制を模索しながら、当該休眠預金事業を通して、行政や企業、地域コミュニティやNPO等など多様なステークホルダーが有するリソースとフードバンクやこども食堂など食支援団体が有するリソースの結合により、近年、増加・大規模化、頻発する災害時に、新たな連携のノウハウを生かした被災地協働支援を行うための活動基盤を強化したい。

具体的には以下の様に考察する。

- (1)発災時即座にフードバンクとして稼働可能な支援活動の引き出しの整理ができている
- (2)発災時即座に北陸フードバンク推進協議会の連携によって、稼働可能な支援活動の引き出しの整理ができている
- (3)発災時即座に稼働可能な設備(業務用冷凍冷蔵庫や冷蔵車・冷凍車等の配備)の整備ができている
- (4)発災時即座に使用できる資機材の購入に使える助成金や補助金を申請できる組織基盤の整備ができている
- (5)発災時にスムーズに稼働できる人材の発掘と養成を図り、グループ化ができている
- (6)発災時即座に連携を図る事ができるNPO等組織間の協働協定締結の整備ができている